

2.第3回「釧路川流域委員会」での意見に対する検討方針

各委員の意見等の検討方針

区分	各委員の意見等	検討方針
河川・湿原環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路川流域の環境を考える場合の区域分けは、土地利用が促進されている地域や、自然河道として存置されている地域など詳細に分けて考える必要がある。 ・ 流域の土地利用状況で樹林が60%という数字は意外に多いという印象があるが、原野の状態を呈している樹林地、荒れた落葉広葉樹やカラマツ林の植林地等を一括して「樹林地」としている。樹林地の質も捉えて考えるべきである。 ・ 流域の自然環境を考える場合、支川の状況が重要であり、蛇行を残した河川改修など支川も重視すべきである。 ・ 中流域の動植物に関するデータが少ない。湿原の後背区域や山間区域などの湿原を支えるエリアの情報を取り入れる必要がある。 ・ 環境と利水は関係が深く地域で考える課題であるため、自治体や大学生・高校生などが議論できるように、行政サイドからデータ等の情報を提供して欲しい。 ・ 酪農排水の影響について数値化を行って、釧路川に流入している生活排水や産業排水の数値と比較するなど地域住民に分かりやすい情報発信をして、川の浄化を考えていくことも必要である。 ・ 釧路川をもっと生活の中に取り込んだ、学べる、楽しめる、そんな環境づくりを進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の意見に配慮し、グランドデザインを検討していく。 ・ 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。 ・ 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。 ・ 今後、逐次データの蓄積を図りながら、それらの情報を取り入れて検討していく。 ・ 各種情報の公開・提供を進めていきたい。 ・ さらに分かりやすい情報発信をしていきたい。 ・ 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理は、できる限り自然を破壊しないような工法を考えていかなければならない。自治体や専門家を含めて検討するとともに、地域住民の理解を得ることが必要である。 ・ 流域内に釧路湿原国立公園と阿寒国立公園を擁しているため、国立公園の管理と河川管理をうまく連携させて、質の高い流域管理を考えていかなければならない。 ・ 河川管理は堤防等のハード面を整備する必要もあり、ある程度行政主導で行っていくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。 ・ 釧路湿原の自然再生事業は、関係行政機関等が連携して協議会を設立し実施していくが、他の河川事業についても、関係機関と密接な連携のもとに進めていきたい。 ・ 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。
グランドデザインの検討に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川については、それぞれの市民レベルでは意見が出しにくい。市民レベルの活動にも目を向け、各市民団体等に意見の集約をお願いする方法等を活用し、意見を取り入れることが重要である。 ・ 各種市民団体等の意見聴取については、流域委員会の下に一般の人が入る小委員会を設けることも一案である。 ・ 今後グランドデザインを作るときに、漁業や酪農、自然保護関係など立場によって釧路川に対する認識が違っているので、これをグランドデザインにどのようにつなげていくのか手法等を考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当委員会でグランドデザインを検討するにあたっては、流域の特性や課題、進むべき方向を定めた計画の資料のほか、流域住民からの意見も含めた資料をもとに議論をしていただきたい。

区分	各委員の意見等	検討方針
グランドデザインの検討に向けて	<ul style="list-style-type: none"> • 釧路地方総合開発促進期成会で、釧路湿原の将来について自然保護優先で進めるよう検討した経緯がある。これらの過去の検討結果も重ね合わせて自然再生事業などを進めていく必要がある。 • 釧路川の方向性をまとめるためにこれまで流域の状況を見てきたが、今後は各委員から釧路川流域の方向性について意見を出さなければならないと考えている。グランドデザイン検討過程の中で様々な意見が出されるが、その中で共有できる認識を抽出し、流域特性を踏まえながら、委員会として集約していく方向で考えていくことが必要である。 • 釧路川流域のグランドデザインでは、流域全体として捉えた場合の川の特性や、各地域で何を目指すべきなのかを明確にする。 • 流域を区域に分けて考えることは必要であるが、流域のグランドデザインは全体的に捉えて考えなければならない。森林の伐採と草地化により流域の保水力が低下しており、保水力の高い集水域をつくるため、植林や放棄された草地の森林化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 委員会でのグランドデザインの議論が、左記の意見を反映したものとなるように、資料の作成にあたっては十分配慮したい。 • 流域の保水力を高めるための裸地の森林化等の植林については、関係行政機関とNPO等が連携して推進しており、河川区域内においても可能な限り実施していくが、河川区域以外のその他の地域の植樹との連携を図りながら推進していきたい。